

事業名 府民との協働！ひつじ飼育による河川環境づくり

府民との協働により、「ひつじ」を除草役とした河川環境づくりを実施し「除草コストの縮減」「不法投棄の防止」「府民に親しまれる公共空間の創出」「河川愛護心の醸成」「循環型社会に向けたささやかな貢献」といった成果が得られ、地域住民はもとより他の自治体やマスコミ関係者などにも高く評価された事業

受賞機関 大阪府鳳土木事務所
 事業実施期間 平成13年10月1日～平成14年8月26日
 事業費 1.5百万円

事業等の特徴

ひつじによる堤防除草というユニークな発想によって、維持管理コスト縮減及び温室効果ガスの削減（従来は除草した草を焼却）を図っているだけでなく、日常のひつじの世話を町内会の方々に行ってもらうことにより、当該河川が住民の新たな交流の場として機能するとともに、子供や家族連れが多く訪れ、地域の総合学習の場や府民に親しまれ癒される場として機能している。

事業の概要と利用者等の評価

大阪府では、河川の維持管理において、除草は年間1～2回程度実施しているが、十分とはいえず、種々の問題を抱える現状にあった。その現状を打開するための方策について、「除草コストの縮減」「河川愛護心の醸成」等の観点から検討を重ね、「ひつじさん」による河川環境づくりを発案した。

河川敷のオープンスペースにひつじを放牧することは全国的にも例がなく、また、飼育リスクである、

冬場エサ問題を除草工事で発生した雑草を乾し雑草として利用することや、ひつじの日常の世話を地域の町内会がボランティアで行う府民協働事業で解決を図り、地球環境やコストにも配慮するなど新たな公共施設の維持管理手法を示すことができた。

ひつじの活躍により、河川の除草や不法投棄の処理などの維持管理コストとひつじの飼育コスト（小屋・牧柵の設置費・衛生検査費等）をひつじが10年間生存することとした場合と比較すると、約400万円/10年程度の縮減が可能であることがわかり、今まで年1回程度の除草しかできなかった行政サービスが、ひつじの放牧により、生えている草を全て食べるため常時きれいな状態となり、行政サービスの水準が大幅に向上したうえ、不法投棄がなくなった。

また、ひつじの世話を通して、住民相互の新たなふれあいの場、地域の子供たちの総合学習の場としても機能し、地域住民に多大な評価を得ている。

審査委員会委員の意見等

- ・ユニークな発想により維持管理コスト縮減を図り、子供や家族連れ等が多く訪れ地域の人に利用されていることは評価できる。
- ・アイディアの勝利。小予算でも多方面にわたる効果が期待でき、公共事業のイメージアップにも貢献できることを実証したプロジェクトである。
- ・ひつじによる堤防除草という発想はユニークで、羊の冬季の餌場の確保、市民とのふれあいの場の提供など親しみやすい公共空間を演出していることを評価したい。さらに二級河川で試験実施を行って導入していることも評価したい。
- ・手近に身近に動物と触れ合えることは、現代社会の中で、セラピーとしての有効性が議論されている。共存、持続型社会形成につながると考えられる。



放牧しない場合



放牧した場合